

# すまいるたうん



発行元  
東京新聞  
南千住東口専売所  
5850-3699  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
090-2657-0300

## 寄り添って 愛の家 グループホーム荒川南千住

「できないと言わない支援を致します」

愛の家グループホーム荒川南千住は、昨年12月に弁天湯の跡地にできました。認知症に特化した施設です。

荒川区では、全国を上回るスピードで高齢化が進み、南千住1丁目・2丁目、西尾久5丁目では3割以上が高齢者となっています。

また、要介護認定者数は尾久地域次いで南千住地域となっています。

区内の要介護認定の原因は認知症が多いです。全体の4割程度は自立に近い認知症です。

「早めの対応が大事です。」

【東京リバーサイド病院（南千住8-4-4（5850）0311）神経内科（物忘れ外来 金曜）】

認知症は、早期に診断することができれば、周囲の援助を受けるための心構えができたり、認知症が進行したときの対応を自分であらかじめ決めておくことができます。

また、さまざまなサービスの利用に本人と介護者とがともに慣れ、知識を

習得することもできます。このことにより、介護にゆとりをもたらし、本人にも好影響を与え、トラブルの発生を減らすことも可能です。

「その方ができることを活かします」

愛の家では、その方のできることをさらに発展させていくため、洗濯・入浴など日常生活でできる限り、ご自分でやっていただきます。

手を出すことは、簡単なのですが、じっくり時間をかけて待つことはなかなかできないことです。今どうありたいのか、何をしたいのかを理解し、認知症の方の感情・行動の意味などを思い測ります。

外側から眺めているだけでは、ありのままを受け止められません。しっかりとかわりを持ち、相手の気持ち・感情をお互いに確認して初めて「ありのままを受け止められる」と考えます。

「行動を共にする」

対象者に寄り添い歩く、共に食事をつくる、外出するなど挙げられます。支援する時、対象者が今何をしたいのか、どう動きたいのかという気持ち・感情に寄り添っていきます。

「住み慣れた地域で安心・安全に暮らし続けられること」

環境を変えずに暮らしていただくことを念頭に置き、愛の家では、個室には、クローゼット、照明、エアコンのみ用意

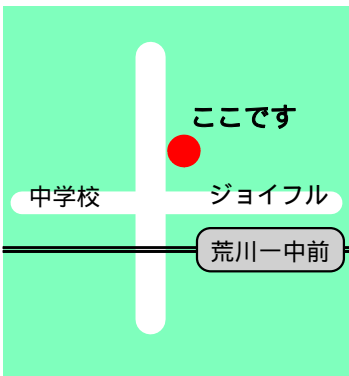
してあります。今までの生活で使用していた布団やベットを使っていただきます。

お風呂は各階にあり、自宅の風呂場のようにゆつたりと時間がすごせます。レクリエーションも充実しており、屋上には土に親しんでいただくため、家庭菜園も用意されています。ジョイフル三ノ輪商店街のすぐ傍なので、職員と一緒に散歩や買物にも行けます。楽しみの一つである食事管理栄養士が栄養バランスを考えて作ります。

愛の家は全国にネットワークを持ち、常時2千人の方が利用されております。

入居条件は、荒川区在住であること、認知症と診断されていること（要支援2〜要介護5）になります。介護認定を申請される方もご相談ください。

百聞は一見にしかず！ぜひ、お気軽にホームを見にいらしてください。お待ちしております。



愛の家グループホーム荒川南千住  
南千住1-23-11  
(5615)1580  
Fax(5615)1581

